

日本消化器外科学会雑誌編集後記

本年 3 月 11 日に東日本を襲った大地震の復旧, 復興に全力を挙げて取り組んでいる姿が報道される一方で, 先日, 福島第一原子力発電所の事故に関する報道は, パニックを防ぐため情報操作がされていたことが明るみになりました. これらのニュースは世界において日本の評判をいっそう落とす結果となり, つくづくと大変な時代になってきたと思います.

このような時代背景とは全く関係なく日本消化器外科学会雑誌第 44 巻第 6 号は粛々と刊行されます. 本誌では原著論文 2 編, 症例報告 16 編, 臨床経験 1 編で, その内訳は R0 : 0 編, R1 : 8 編, R2 : 7 編, R3 : 3 編, R4 : 1 編という構成です. ここでいう R はいわゆる residual tumor 癌遺残度ではなく何回投稿されたかを表す数字です. R0 は初回投稿で採用となった論文, R1 は査読者のコメントに従い 2 度目の投稿で採用となった論文, R2 は 3 回目, R3 は 4 回目, R4 は 5 回目の投稿で採用となった論文を表します. 日本消化器外科学会雑誌は電子ジャーナル化されオンライン投稿となりましたが, 毎月開催される編集委員会はネット上の会議などではなく, 編集委員の先生が一堂に会し毎回熱く議論が繰り広げられております. その結果が R number に反映されていると思います.

本編集委員会は桑野編集委員長, 安藤担当理事を中心として, 日本一の和文誌をめざしております. インターネットの発達により, 執筆, 検索, 投稿が随分と便利になりましたが, 投稿される先生におかれましては便利さにかまけて安易に論文作成をするのではなく, 現在および後に論文を読むことになる会員にとって本当に役に立つ行間に心血を注いだ論文を作成いただくことをお願いいたします.

(大坪 毅人)

2011 年 6 月 1 日